

～読んでみない？こんな本～

かあさんのいす

ベラB. ウィリアムズ 作・絵 佐野洋子 訳



母さんの働くブルータイル食堂でわたしも時々手伝いをすると、お店のジョセフィンからお金をもらいます。わたしはそのお金の半分を家のテーブルに置いてある大きなビンに入れます。母さんもおばあちゃんもこまかいお金をそこへ入れています。

わたしの家は去年の火事で全部焼けてしまったので、世界中で一番すてきなイスを買うためにお金を貯めているのです。母さんが休んだりおばあちゃんが野菜を切るときに腰掛けることのできるイスを…。

女の子の家が火事にあい、新しいアパートに引越し、大きなイスを買うまでの話なのですが、母さんとわたしそれにおばあちゃんの強いつながりを感じるような本です。明るくてユーモアたっぷりのおばあちゃんや、周りの人達に助けられ見守られながら暮らしている“わたし”の様子からは、大変なことがあったのにそれを乗り越えて前向きに生きている強さが感じられます。お話しは“わたし”から見た様子で淡々と語られていますが、ページをめくるたびにその場面に合った飾り淵のような絵がぐるっと描かれていて、わたしの気持ちを表しているように見えます。

この本には続きがあるのでそちらもご覧ください。わたしの誕生日に本当に欲しいものを買うまでの「ほんとにほんとにほしいもの」と、その欲しい物を手に入れたわたしが音楽を始める「うたいましょう おどりましょう」です。